

夏らしくないぐずついた天気が続かなかでも、熱中症予防の売り場がにぎわっている。体を冷やすシートは猛暑だった昨年に匹敵する売れ行き。塩分補給のアメ、危険を知らせる装置なども人気だ。体が暑さに慣れていないと熱中症になりやすいとされており、長時間のドライブや屋外作業では対策が欠かせないようだ。

熱中症 広がる備え

アメ補給 警告ランプ

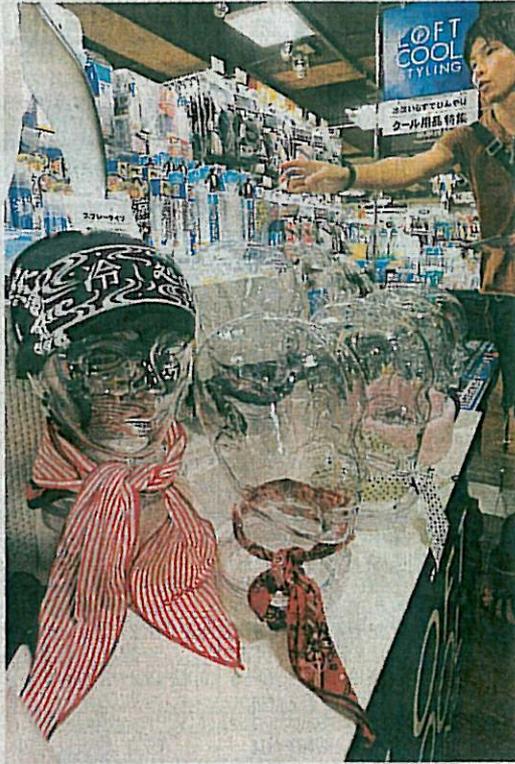
高速 長距離ドライブでも 値下げ
「野外コンサートに行つたときに首にまくつもり」。11日に渋谷ロフト(東京・渋谷)を訪れた男子学生(21)は、吸水ポリマー入りのスカーフを買った。ポリマーを水でしめると蒸発するときの気化熱で体温を下げられる。価格は1575〜1785円。「しゃれたデザインで外から見てもおかしくない」と男子学生は話す。

▼熱中症 高温の環境で体温の調節機能がうまく働かず、体の水分や塩分のバランスが崩れると発症する。軽度の場合目はまじや立ちくらみですむが、重度になるとけい

れんが起きたり意識がなくなったりする。最高気温がセ氏30度以上で、気温、湿度、放射熱などから導き出すWBGT(暑さ指数)が28度を超えると患者が増え始める。2007年は猛暑の影響で過去最多の904人が亡くなった。

め塩飴85%)は同2.5倍だった。同社は「10000円の高速道路料金を利用して長距離をドライブする人などが購入している」とみている。

今年には気温や湿度の変化をもとに、熱中症の危険を知らせるための商品「サーブ」が相次いでいる。日本気象協会(東京・豊島)の「携帯型熱中症計」(1050円)は危険度を5段階のランプで知らせる仕組み。手のひらに乗る大きさで、屋外で作業するときそばに置いておくこと適応できず熱中症にかかる恐れがある。ウェザーニューズは「体育館など蒸し暑い場所は危険が大さい」と注意を呼びかけている。



ている。「暑くなったからというより予防のために買い求める人が多い」とみている。ゴルフなどスポーツ向けに好評なのがSRIスポーツの冷却シート「ゼクシオネッククーラー」(希望小売価格1575円)。安定して首に装着水にぬらして使うスカーフが人気(東京・渋谷の渋谷ロフト)

安全(東京・渋谷)の「アメ」塩熱飴(えんねつあめ)「同263円)は、7月の売上高が前年同月比2倍に伸びた。当初は

ドラッグストアのスキ薬局では塩分の濃度が高い食品や飲料が好調。ロツテの「塩キャラメル10粒」の7月の売上高は前月比32%増。ライオン菓子(東京・文京)の「う

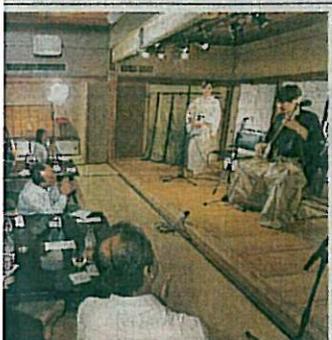
手ひらに乗る大きさで、屋外で作業するときそばに置いておくこと適応できず熱中症にかかる恐れがある。ウェザーニューズは「体育館など蒸し暑い場所は危険が大さい」と注意を呼びかけている。

だが体が暑さに慣れていない分、気温の上昇に適応できず熱中症にかかる恐れがある。ウェザーニューズは「体育館など蒸し暑い場所は危険が大さい」と注意を呼びかけている。

携帯型アンプ続々

街で聴く音楽、良い音に

携帯音楽プレーヤーと「e(アイコンモバイル)」ヨドバシカメラ新宿西口本店(同・新宿)では、ヘッドホンの間に「e」(古頭価格1万3650円)アンプはあったが、コン



ことで迫力のある低音を出せる。縦横が4センチ前後で、クリップで衣服やかばんに取り付けられる。主に20歳代後半から30歳代の男性が買っている。これまでもヘッドホンアンプはあったが、コン

玉川高島屋SC 40周年記念改装 30店新たに導入 玉川高島屋ショッピングセンター(SC)、東京・世田谷)は、今年5月に40周年を記念して改装する。別館を建て替えて10月16日に開業するほか、年内に衣料品など30店を新たに導入する。日本初のSCとして開業した1

消費の現場

亭で伝統芸能 味わう

かつて多くの政治家が愛用した東京・赤坂の高級料亭「赤坂金龍」を、一般の人々が訪れている。目当ては食事をしながら

楽しむ日本の伝統芸能だ。先週夜の出し物は津軽三味線、食事・飲み物付きで1人1万3000円と値ごろであることもあって、26人入る会場はほぼ満席。50歳代の女性は「音色が心に染みだ」と感激しきりだった。